

〔科目名〕 学習導入演習		〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 アカデミック・コモンベーシックス 基礎科目（必修科目）		
〔担当者〕 小林直樹		〔オフィス・アワー〕 時間：適宜（※要事前連絡） 場所：612 研究室		〔授業の方法〕 演習+講義形式		
〔科目の概要〕 <p>大学における「学び」（講義・研究等）は、高校までの「学び」（受け身の授業）とは異なり、授業の内容を理解して定期試験を受けて終わるものではありません（良い点数を取ることに限らない）。大学における「学び」は、専門書を通じて知識をえて、さらにそれを深く掘り下げて調べ、発表（レポートや論文の作成）・意見交換を通じて自分の考えをまとめるという論理的思考を身に着けることです。能動的な「学び」といえます。</p> <p>入学直後は何事も初めて経験することばかりで、とりわけ大学における「学び」に戸惑い困惑し、不安を感じると思います。そこで、この演習は、不安を少しでも解消し、大学における「学び」を徐々に自分のものにできるよう「アシスト（支援）」する内容となっています。具体的には、受講の仕方、図書館の利活用（課題提出のための文献や資料の調べ方）、データベースの利活用、レポートを作成する際の「テーマ」や「問い」の立て方、構成やパラグラフの作り方、文献や資料の参照方法（脚注や引用方法に限らず、剽窃等の著作権侵害の注意喚起）など、大学における「学び」に必須の「スキル（技法）」を演習で修得します。</p> <p>必要に応じてですが、レクリエーションなどのゲーム（アイス・ブレイク）やグループ発表も考えています。なお、進捗状況によっては、授業スケジュールおよびその内容について若干の変更もあります。</p>						
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 <p>本演習は大学における「学び」の「アシスト」となります。そして、演習を通じて身につけた「スキル」は、講義や演習等を受講する際の有用な力となり、就職活動や、将来就くかもしれない職業にも活用・応用できる力となるでしょう。</p> <p>しかし、短時間で「スキル」を修得することは困難で、各回の演習を通じ、一人一人の個性に応じて地道な努力の積み重ねが必要になると思います。演習受講後の積み重ね（復習）により身につけた「スキル」は、変化に富んだ時代を生き抜く「ツール（道具）」になることは疑いありません。</p>						
〔科目の到達目標〕 <p>3点（①“与えられた課題等について自分で調査し、正確に資料を読む力”、②“多くの資料に目を通して物事を客観的・批判的に検証する力”、および③“自分の考えを、客観的・論理的に、かつ正確に他者に伝える（プレゼンテーション）力”）を重視し、評価をします。</p> <p>A 80 点以上 秀 当該科目で定められた到達目標を、特に優秀な水準で達成している  B 70 点以上 80 点未満 優 当該科目で定められた到達目標を、優れた水準で達成している  C 60 点以上 70 点未満 良 当該科目で定められた到達目標を、良好に達成している  D 50 点以上 60 点未満 可 当該科目で定められた到達目標を、最低限達成している  F 50 点未満 不可 当該科目で定められた到達目標を、達成していない</p>						
〔ディプロマ・ポリシー（DP）との関係〕						
学部				学科		
DP1	DP2	DP3 ○	DP4 ○	DP1	DP2	DP3
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 <p>高校までの「学び」と大学における「学び」のギャップを埋め、双方を架橋するための演習を心がけてきたことが授業評価で肯定的な意見となったと思います。それを踏まえ、初年次ということで新しい環境や交友関係で戸惑う受講生に対しては、アイスブレイクを通じて緊張をやわらげ、大学生活に徐々に慣れていけるように演習を進めていきます。演習の環境が整ったことでグループワークやグループ発表、個人研究や個人発表、レポートやプレゼンの方法を学びますが、受講生には 15 回の演習の経験をいかして充実した大学生活を送っ</p>						

てほしいと心から思います。	
〔教科書〕 必要に応じて、参考となる書籍を紹介する。	
〔指定図書〕 適宜紹介する。	
〔参考書〕 世界思想社編集部『大学生 学びのハンドブック〔第6訂版〕』（世界思想社、2024） 佐藤望ほか『アカデミック・スキルズ〔第3版〕 大学生のための知的技法入門』（慶應義塾大学出版会、2020） 田中共子『よくわかる学びの技法〔第3版〕』（ミネルヴァ書房、2018）	
〔前提科目〕	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 課題とレポートを総合的に評価します。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 大学生活に慣れるため、規則正しい生活リズムを確立し、無断欠席や遅刻に注意をしてください。 例えばアルバイトや交友関係、自由な時間割により、高校生の時に比べて生活のリズムは崩れやすくなります。そのため自己管理が重要になります。特に注意が必要なのは、インターネットやスマホ（動画やSNS等）、ゲームに興じる等、大切なことを後回しにして長時間にわたり無為な時間を過ごすことです。自分の意思で自由な時間を謳歌できるのは4年間の大学生活が最後だと思います。後々、後悔しないようにしてください。	
〔実務経歴〕 該当なし	
授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか): 「学習導入演習」のガイダンス 内 容: 「学習導入演習」の進め方について説明。自己紹介など。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。
第2回	テーマ(何を学ぶか): 大学における「学び」とは何か 内 容: 高校までの授業と大学における「講義」や「演習」との違いに気づき、大学の「学び」について知り、理解を深める。簡単なグループワークを通じて理解を深めます。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。
第3回	テーマ(何を学ぶか): 大学における「学び」(グループワーク) 内 容: 簡単なグループワークを通じて大学における「学び」を体験してみます。具体的にはグループワークの作法やその目的、効果を体験し、グループワークの意義を理解します。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。
第4回	テーマ(何を学ぶか): 図書館の活用 (その1) 内 容: インターネット上の情報のみに頼らない、図書館にある文献(専門書など)や雑誌や新聞の記事の調査といった情報収集の基礎を学びます。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。
第5回	テーマ(何を学ぶか): 図書館の活用 (その2) —— 図書館管理の利活用の実践 内 容: インターネット上の情報のみに頼らない、図書館にある文献(専門書など)や雑誌や新聞の記事の調査といった情報収集の基礎を学びます。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。
第6回	テーマ(何を学ぶか): 文献を読む (その1) 内 容: 文献(専門書など)を読むにあたって、必要なスキル、つまり論理的・批判的思考について学びます。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。

第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): 文献を読む (その2)</p> <p>内 容: 第6回につづき、文献(専門書など)を読むにあたって、必要なスキル、つまり論理的・批判的思考や、要約について学びます。</p> <p>教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): 文献を読む (その3)</p> <p>内 容: 第7回につづき、文献(専門書など)を読むにあたって、必要なスキル、つまり論理的・批判的思考や、要約について学びます。</p> <p>教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): グループ・ディスカッション (その1) —— 調査はじめ</p> <p>内 容: 教員が提示した「テーマ」や「問い」について、グループで調査し、グループ・ディスカッションを通じて出された結論について報告をする準備をします。その際、第1回から第8回まで学んだことを最大限活用します。</p> <p>教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): グループ・ディスカッション (その2) —— 調査とまとめ</p> <p>内 容: 第9回に続き、教員が提示した「テーマ」や「問い」について、グループで調査し、グループ・ディスカッションを通じて報告・討論の準備をおこないます。</p> <p>教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): プグループ・ディスカッション (その3) —— 発表と討論</p> <p>内 容: 第9回および第10回を通じて調査したことをもとに、報告・討論をおこないます。加えて、質疑応答をおこないます。</p> <p>教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): プレゼンテーション (その1) —— 導入</p> <p>内 容: 第4回以降、自分で考え、設定した「テーマ」や「問い」について予備報告をします。まず、テーマの概要、調査方法等を口頭で発表します。その際、質疑応答も行います。</p> <p>教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): プレゼンテーション (その2) —— 調査</p> <p>内 容: 第12回につづき、自分の設定した「テーマ」や「問い」について、図書館や教室のパソコンを通じて、調査をおこないます。また、プレゼン用の資料を作成します。</p> <p>教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): プレゼンテーション (その3) —— 報告・討論</p> <p>内 容: 第13回の調査に基づいて、自分の設定した「テーマ」や「問い」の概要を発表し、他者との質疑応答を通じて、自分の「テーマ」や「問い」についての考え方を検証します。</p> <p>教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): レポートの作成</p> <p>内 容: 第14回につづき、プレゼンテーションを通じて、検証した自分の「テーマ」や「問い」についての考え方を文章としてまとめ、レポートを作成します。</p> <p>教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。</p>
試験	レポートの提出